

Ⅲ－3

「地域に豊かな学びを創る」

目標7. 生涯学習・スポーツの充実

目標8. 文化・芸術の振興

目標9. 地域協働合校の推進

基本方向	3	地域に豊かな学びを創る	評価
目標	⑦	生涯学習の充実	A
具体目標	ア	生涯学習の充実	2.1
施策	(30)	生涯学習の機会の充実	
	(31)	生涯学習施設の整備・充実	
	(32)	学習ボランティアの育成・活用	
	(33)	誰もが参加できる環境学習の推進	

具体施策			評価
(30) - 1	各世代に対応する学習や大学等と連携した専門的な学習の充実を図ります。		1.5
(30) - 2	学習情報の提供や相談窓口、学習成果発表の場を充実します。		2.5
(31) - 1	公民館等の誰もが利用しやすい施設の整備・充実を進めます。		—
(32) - 1	「ゆうゆうびとバンク」制度を充実し、その周知と活用を進めます。		2.0
(33) - 1	こどもエコクラブ活動等、学校、家庭、地域で取り組める環境学習の機会を提供します。		1.5
(33) - 2	環境学習を推進する人材の育成や環境学習団体への支援と交流・連携を促進します。		3.0

※(31)-1は市長部局で実施

主な取り組みの成果	
(30) - 1	<ul style="list-style-type: none"> ・立命館びわこ講座については、文化をテーマに開講し、多くの市民に受講いただいた。また講座内容については、草津宿本陣に関するものをプログラムに取り入れた。講座終了後、実施した内容を市ホームページで紹介し、市民へ発信した。 ・淡海生涯カレッジ草津校については、「環境文化の創造」をテーマに実施し、修了者率が昨年度を上回った。
(30) - 2	<ul style="list-style-type: none"> ・市などで行う教育的な講座やイベント等の情報を集めた「生涯学習ガイドブック 誘・遊・友」の冊子を発行し、各市民センター等に配布し、さらに市ホームページにもその内容を掲載し、市民に学習情報を提供した。 ・市民が必要とする資料をすばやく提供するとともに、生涯学習の拠点となるべく、資料の収集と保存、貸し出しに努めてきた。 ・図書館では「レファレンスサービス」を重視し、読書相談以外にも、市民の多様な要望に対して、情報提供を実施してきた。
(32) - 1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ボランティア人材情報「ゆうゆうびとバンク」の冊子を作成し、公民館や学校、公共施設に設置し、イベント等での活動の促進に寄与できた。また、バンク登録者を支援する「ゆうネットくさつサポーター」と協力し、「ゆうゆうびと講座」「サポーター企画講座」「ゆうゆうびと講師のつどい」等の開催により、学習ボランティアの活動促進を図った。また、ゆうゆうびとバンク登録者による地域協働合校推進事業への指導者としての参加の割合が、増加傾向にあり(平成22年度 49.1%→平成23年度 59.6%)、学校支援の1つとして、ゆうゆうびとバンクが定着してきた。
(33) - 1	<ul style="list-style-type: none"> ・環境課と連携し、こども環境会議を開催し、学校・家庭・地域が連携した環境教育の取り組みについて交流し、子どもの環境に対する意識をさらに高めることができた。 ・スクールISOの取組においては節電についての意識が非常に高まり、学校のみならず、家庭でも取り組みが充実できた。
(33) - 1	<ul style="list-style-type: none"> ・環境文化の創造をテーマとした淡海生涯カレッジ草津校については、座学だけではなく、エコグッズ作りや環境にこだわった農業についての学習など、普段では体験できないことを取り入れて実施した。
(33) - 2	<ul style="list-style-type: none"> ・講座修了者には、滋賀大学環境学習支援士養成講座の受講(平成23年度は草津校修了生3名が当支援士に認定された)や、「ゆうゆうびとバンク」への登録や琵琶湖博物館の「はしかけ制度」への登録などを勧めた。

今後の課題

- (30)-1 「立命館びわこ講座」については、連続講座実施回数の減少(8回→5回)による1回あたりの受講料が上昇(市民:250円/回 → 400円/回、市外:500円/回 → 800円/回)により、特に市外の受講者が減少した。(30人→8人) 今後は、より多くの市民に受講していただけるように、内容の充実や啓発方法等について立命館大学と調整しながら、検討を進めていく必要がある。
- (30)-2 「市民に役立つ図書館」として、図書館を支援する団体と協働しながら相談・案内等のあり方を検討する。
・草津市図書館協議会より意見を求め、図書館サービスの充実を図る必要がある。
- (32)-1 指導経験の少ない登録者の脱退もあるが、新しいバンク登録者も増加している。サポーター企画講座の講師を指導経験の少ない登録者に優先的にお願いする等、登録者の活動の場を増やせるよう努めていくとともに、新規登録者の増加のため多方面に対する「ゆうゆうびとバンク」の周知を検討する必要がある。
・地域協働合校推進事業での活用については、積極的に活用いただいているが、さらに活動の幅が広がるように周知していく必要がある。
- (33)-1 今後も引き続き、エネルギー問題等さまざまな環境問題に対する意識と実践的態度を育てていく必要がある。
- (33)-2 淡海生涯カレッジ修了者の活動の場を広げるために、様々な登録制度への登録につなげていくための啓発が必要である。

取り組みの状況

事業名	担当課	活動の概要	実績					
			項目	H22	H23	単位	推移	評価
(30)-1 立命館びわこ講座	生涯学習課	多様化する学習需要に応えるため、大学の知的財産を活用した、多様な学習機会を提供した。	受講者数	205/200	166/200	人	↘	c
(30)-1 淡海生涯カレッジ草津校	生涯学習課	地域の大学、高校を利用して、問題発見から理論学習まで段階的に学んでいき、また学習知識を地域に還元した。	修了者数	20	19	人	→	b
(30)-2 「誘・遊・友」の活用	生涯学習課	市等で行う講座やイベント等の情報を集めた「生涯学習ガイドブック」の冊子を発行し、市民に活用していただいた。	冊子掲載事業への参加者数	16,621	28,175	人	↗	a
(30)-2 図書館運営事業	図書館	生涯学習の拠点として資料の収集と保存および貸し出しを行い、読書活動の推進と啓発に努めた。	蔵書貸出冊数(移動図書館含)	1,341,274	1,326,442	冊	→	b
(32)-1 「ゆうゆうびとバンク」事業	生涯学習課	学習ボランティア人材情報誌に登録いただき、地域協働合校推進事業にも指導者として参加いただいた。	地域協働合校への指導参加割合	49.1	59.6	%	↗	a
(32)-1 「ゆうゆうびと講座」の開設	生涯学習課	バンク登録者を講師として講座を行った。	一講座あたりの受講者数	17	13	人	↘	c
(33)-1 こども環境会議の開催	学校教育課	環境課と連携し、こども環境会議を開催した。	参加団体数	49	42	団体	↘	c
(33)-1 淡海生涯カレッジ草津校	生涯学習課	様々な施設等で段階的かつ、継続的な環境学習機会を提供した。	修了者数	20	19	人	→	b
(33)-2 淡海生涯カレッジ草津校	生涯学習課	講座修了生が、活動の場を広げるための登録制度へ登録した。	登録者数	0	3	人	↗	a

外部評価委員の意見

○(30)-1に関して、取り組みの成果のところ修了者率が上がったとあるが、取り組みの状況の数値からはそれが読み取れない。データになる部分を表に挙げなければいけない。

○(33)-2について、登録者を増やし人材を活用するために、各種の登録制度に登録することのメリットをPRする必要がある。

基本方向	3	地域に豊かな学びを創る	評価
目標	⑦	生涯学習・スポーツの充実	A
具体目標	イ	スポーツの振興	2.9
施策	(34)	市民の生涯スポーツ活動の支援	/
	(35)	競技スポーツの振興	
	(36)	社会体育施設の整備・充実	

具体施策		評価
(34)-1	総合型地域スポーツクラブ(*1)の育成と学校体育施設等の活用による地域スポーツ活動を推進します。	2.5
(34)-2	各種スポーツ大会等の充実とレクリエーションスポーツの普及を図ります。	3.0
(34)-3	生涯スポーツの振興を目指す市民団体の育成・支援を進め、市民のスポーツ参加を促進します。	3.0
(35)-1	競技スポーツの振興を目指す団体の育成・支援を進めます。	3.0
(36)-1	社会体育施設の整備・改修計画を策定、実施し、利用促進を図ります。	—

主な取り組みの成果

(34)-1	<ul style="list-style-type: none"> 学校体育施設開放推進事業の利用率は、体育館では93%を超えており、体育館とグラウンドの合計でも約82%と非常に高い稼働率となっている。 総合型地域スポーツクラブについては会員数が約80人の大幅な増加となり、事業実施回数、事業参加人数も昨年度に比べ大きく増加し、活動内容は充実してきている。
(34)-2	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ・レクリエーション祭やチャレンジスポーツデーの開催を通じて、レクリエーションスポーツの普及に努め、参加者数も昨年度に比べ、1,000人以上増加した。
(34)-3	<ul style="list-style-type: none"> 各学区・地区体育振興会等の各種事業を支援し、地域スポーツの振興と市民のスポーツ参加機会の増加に努めた。
(35)-1	<ul style="list-style-type: none"> 市民体育大会の開催により、市民に競技スポーツ参加の場を提供することができた。 県民体育大会への選手派遣について支援し、平成23年度は約660人を派遣、郡市対抗の部で県3位の総合成績を収めた。

今後の課題

(34)-1	<ul style="list-style-type: none"> 学校体育施設の開放が市民に定着したことで、特に体育館の稼働率が約93%と高く、利用者が希望通りの利用枠を確保することが難しい状況となっているため、今後の運営方法等について検討する必要がある。 総合型地域スポーツクラブの安定した運営のために、会員のさらなる増加が必要である。
(34)-2	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジスポーツデーについては、まちづくり協議会設立に伴った、実施方法・時期の見直しなどを行い、より多くの参加者を集めることのできる事業となるよう検討が必要である。
(34)-3	<ul style="list-style-type: none"> 地域で活動しているスポーツ関係者の枠を超えた、その他の関係者などとの連携を深める必要がある。
(35)-1	<ul style="list-style-type: none"> 市民体育大会のあり方については、競技団体と生涯スポーツ団体等と連携し、市民の誰もがスポーツに親しむ環境づくりを議論する時期にある。 県民体育大会への選手派遣支援については、平成24年度から市体育協会への補助事業とするため、その効果について、検証を行う必要がある。
(36)-1	<ul style="list-style-type: none"> 社会体育施設の中には、耐震補強や改修が必要な施設があり、引き続き整備のあり方について、検討を進める必要がある。 (仮称)市民交流スポーツセンターの整備に向け、調整を進める必要がある。

取り組みの状況			実績					
事業名	担当課	活動の概要	項目	H22	H23	単位	推移	評価
			(34)-1 学校体育施設開放推進事業	スポーツ保健課	小中学校の体育館、グラウンドをスポーツ等の活動場所として開放した	登録者数	3,603	3,452
(34)-1 総合型地域スポーツクラブ活動補助事業	スポーツ保健課	スポーツ教室・イベントの開催に対し支援した	会員数	220	302	人	↗	a
(34)-2 市民スポーツ・レクリエーション祭開催事業	スポーツ保健課	市民を対象にニュースポーツを中心としたイベントを開催した	参加者数	634	896	人	↗	a
(34)-2 チャレンジスポーツデー開催事業	スポーツ保健課	各競技団体および各学区・地区において、一斉に様々なスポーツイベントを実施した	参加者数	3,739	4,811	人	↗	a
(34)-3 体育振興会事業	スポーツ保健課	各学区・地区の体育振興会が開催する各種スポーツ事業に対し支援した	事業開催数	26	34	回	↗	a
(35)-1 市民体育大会開催事業	スポーツ保健課	市民を対象に体育大会を開催した	参加者数	2,645	3,056	人	↗	a
(35)-1 県民体育大会派遣事業	スポーツ保健課	市の代表を県民体育大会に派遣した	派遣者数	609	662	人	↗	a

総合型地域スポーツクラブ(*1)・・・地域住民のだれもが、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツを気軽に楽しみ・親しむことのできる生涯スポーツ社会の実現を基本理念とし、生涯にわたってスポーツに親しむ能力や体力・運動能力の向上、健康の保持・増進の基礎を培うため、各種スポーツ教室やイベントなどを行うもの。

外部評価委員の意見
特になし

基本方向	3	地域に豊かな学びを創る	評価
目標	⑧	文化・芸術の振興	B
具体目標	ア	文化財の調査・整備・活用	2.5
施策	(37)	文化財の保護と活用を推進します。	

具体施策			評価
(37)-1	各種文化財の調査と保護を進め、史跡草津宿本陣等の施設の公開、活用を図ります。		2.5

主な取り組みの成果

- (37)-1 ・文化財調査事業では、個人住宅建築に伴う発掘調査件数が大幅に増加(前年比90%増)したが、事業主と調整し、すべての調査を終えることができた。また、開発関連遺跡調査事業でも、発掘調査件数が増加(前年比50%増)し、それに加えて大規模宅地開発に伴う発掘調査が急きょ入ってきたが、県機関への委託等により、事業者と調整を図りながら着実に調査をすすめ、遺跡の記録保存を図ることができた。
- ・発掘調査報告会、歴史資料コレクション展などの普及啓発事業を開催することにより、市民に対し、発掘調査への理解を深めてもらう一助とすることができた。
 - ・史跡草津宿本陣については、未整備の長屋(男衆部屋)の保存修理工事に着手するとともに、併せて隣接する2棟の土蔵についても翌年度から修理工事をすすめるための基本設計を策定することができた。なお、平成24年度には長屋(男衆部屋)の修理工事が完了し、史跡全体の37.4%の保存整備工事を完了することとなる。
 - ・史跡草津宿本陣では、史跡の適正な管理・公開に加え、伝統芸能の鑑賞講座「本陣楽座」を本陣の一般公開15周年を記念して拡大実施。さらには雛人形展を開催するなどして、各事業では集客を得たが、東日本大震災の影響で「くさつ宿場まつり」が中止になったほか、その後の出控え傾向が影響し、前年の集客数より減少した。

今後の課題

- (37)-1 ・発掘調査については現地調査終了が優先となるため、時間的な制約、現場の安全管理の観点等からすべての調査で現地説明会を開催し、調査成果を公表することは困難である。そのため、市広報・HPの活用等、調査成果の公表に向けた具体的な施策を検討する必要がある。
- ・出土品の収蔵施設が飽和状態であるので、整理・保管方法を再検討するとともに、資料を公開する場を持つ新たな専門施設の確保に努める必要がある。
 - ・史跡草津宿本陣については、計画的に未整備である建物、堀、藪の整備をすすめ、史跡全域の公開管理を早期に図らなければならない。このためには、再度の整備計画策定に取り組む必要がある。
- ・市のシンボルである史跡草津宿本陣の良さを市内外の人々が再認識し、文化財の大切さを理解してもらえるよう、草津宿本陣自体の魅力向上を図り、それを広く紹介していく必要がある。

取り組みの状況									
事業名	担当課	活動の概要	実績					推移	評価
			項目	H22	H23	単位			
(37)-1 文化財調査事業	文化財保護課	各種開発の事前の試掘調査、個人住宅建築に伴う発掘調査を実施した。	当該年度の調査計画達成率	102.8	101.2	%	→	a	
(37)-1 開発関連遺跡調査事業	文化財保護課	各種民間開発の事前に発掘調査を実施した。	当該年度の調査計画達成率	96.2	100.1	%	↗	a	
(37)-1 史跡草津宿本陣保存整備事業	文化財保護課	未整備の長屋(男衆部屋)の保存修理工事に着手すると共に、新たに2棟の土蔵の基本設計を実施した。 (目標値 史跡指定地全体の整備事業の完了 100%)	保存整備工事完了率	36.8	36.8	%	→	b	
(37)-1 史跡草津宿本陣管理運営事業	草津宿街道交流館	史跡草津宿本陣の適正な管理・公開とともに、各種普及事業を行った。	入館者数	19,256	18,259	人	↘	b	

外部評価委員の意見

○文化財の調査そのものが大変な中、その結果を市民に公開や提供の取組を進められているということで、a評価も理解できる。

○草津といえば本陣があり、伝統の宿場町ということが市民の誇れるところだと思うが、本陣の保存整備が面積的にはまだまだ少ないということをはじめて知ったので、ぜひ続けてやっていただきたい。

基本方向	3	地域に豊かな学びを創る	評価
目標	⑧	文化・芸術の振興	B
具体目標	イ	ふるさと意識と郷土愛の醸成	2.3
施策	(38)	郷土愛を育む地域づくりを推進します。	

具体施策			評価
(38)-1	地域に根ざした民俗文化財の継承・育成に努めます。		3.0
(38)-2	親しみやすい文化財展や講座の開設により市民への普及啓発を推進します。		3.0
(38)-3	学校と連携して文化財講座等の歴史学習を実施します。		1.0

主な取り組みの成果

- (38)-1 ・各種指定文化財の所有者や民俗文化財の伝承団体への助成措置によって、指定文化財の適正な保存、維持管理、民俗文化財の伝承を図る一助となった。
- (38)-2 ・草津宿街道交流館では、前半期に東日本大震災の影響により出控えの傾向もあって入館者数に落ち込みもみられたが、年2回のテーマ展に加え特別企画展を開催し、新たな来館者層へのPRを行った結果、多くの来館者を得た。また、歴史講座や歴史ウォークを開催するなど、歴史文化の啓発とふるさと意識の高揚に努めた。
- (38)-3 ・学校・公民館等からの依頼に基づき、子ども達を対象とした郷土の歴史学習の支援に努めたが、小学校での野外授業1件のみの支援に終わった。これは、調査期間が制約され、現地調査完了が優先となったことから、現場説明、親子体験発掘などの事業が実施できる適切な調査現場がなかったこと、さらに、中学校の職場体験授業が中止になったことが主な要因である。また、新たな試みとして、蓄積した文化財情報について学校現場での利活用が促進されるよう、学習プログラム作成についての検討を行った。

今後の課題

- (38)-2 ・草津宿街道交流館では、特別企画展の開催を通して得られた新たな来館者層への啓発を継続し、街道文化への理解を高めるとともに、新規来館者を得られるような、より親しみやすい事業展開を図る必要がある。
- (38)-3 ・発掘調査現場の狭隘さや短期間での現地調査完了の進行状況から、現場では子供たちが歴史に直接触れる機会を設けることができなかった。発掘調査状況と調整を図りながら機会を設けていく必要がある。
- ・学校現場が主体的に活用できるようなプログラム等を検討したので、今後は実践に向けて調整していく必要がある。

取り組みの状況			実績					
事業名	担当課	活動の概要	項目	H22	H23	単位	推移	評価
			(38)-1 文化財保護助成事業	文化財保護課	指定文化財所有者等に適正な保存、維持管理等のための助成措置を継続して実施した。	助成事業実施件数	18/18	21/21
(38)-2 草津宿街道交流館運營業務	草津宿街道交流館	草津宿を紹介する常設展示に加え特別企画展1回、テーマ展2回、各種歴史講座を開催した。	入館者数	15,972	17,185	人	↗	a
(38)-3 出前講座等の実施	文化財保護課	老上小学校の校外学習として南笠古墳の見学を実施した。	実施件数	5	1	件	↘	c

外部評価委員の意見
特になし

基本方向	3	地域に豊かな学びを創る	評価
目標	⑧	文化・芸術の振興	B
具体目標	ウ	文化・芸術の振興	2.1
施策	(39)	市民が文化・芸術にふれる機会の拡充	

具体施策			評価
(39)-1	社会教育施設等での講座の充実を図ります。		2.0
(39)-2	文化・芸術団体の育成・支援を図り、文化イベントの充実を図ります。		2.2
(39)-3	文化・芸術の拠点となる施設の整備を進めます。		—

主な取り組みの成果

(39)-1	・俳句のまちづくりを推進するために、俳句愛好者の拡大を目指して行っている事業(青少年俳句大会、ふるさと草津俳句会、俳句入門講座)について、多くの市民の参加があった。
(39)-2	・市民の文化芸術活動や創作活動を奨励するとともに、発表の機会と鑑賞の場を提供するため実施している「市美術展覧会」、「市民文化祭」等は、多くの市民に親しまれる事業となっている。特に「市民文化祭」は50周年記念で、吹奏楽の演奏や呈茶会の実施などにより来場者が増加した。また、旧東海道沿い商店街において市民の方々による絵画や写真などの展覧会や音楽の演奏会を行う、「くさつ市民アート・フェスタ」を開催し、市民が文化芸術を身近に感じ、気軽に触れることができる機会の提供をすることができた。
(39)-3	(仮称)市民文化の森基本計画については、しが県民芸術創造館が県施設であることを前提としているため、同館について示される県の方向性を踏まえる必要があること、さらに計画施設のうち2施設がすでに他所へ移転していることから、同計画の見直しが必要であるため、施設整備が出来ない状況である。

今後の課題

(39)-2	・市民文化祭については参加者、鑑賞者数が増加したが、他の文化芸術事業については、横ばい状況にあるため、周知方法等の工夫が必要である。 ・より一層親しみやすい、市民の方が参加しやすい事業展開をしていくことが必要である。特に次代を担う若年層が文化・芸術に触れることが出来るような事業展開を行う必要がある。
(39)-3	・しが県民芸術創造館の動向を見極めるとともに(仮称)市民文化の森基本計画の見直しが必要になることから、今後必要となる整備施設について検討していく必要がある。

取り組みの状況									
事業名	担当課	活動の概要	実績					評価	
			項目	H22	H23	単位	推移		
(39)-1俳句入門講座	生涯学習課	初心者向けの俳句講座を開催した。	受講者数	20	19	人	→	b	
(39)-2市美術展覧会	生涯学習課	市民の芸術作品の展覧会を開催した。	鑑賞者数	1,933	1,874	人	→	b	
(39)-2市民文化祭	生涯学習課	市民の芸能・展示発表会を開催した。	参加団体	40	40	団体	→	b	
(39)-2くさつ市民アート・フェスタ	生涯学習課	商店街で市民の芸術作品の展示、音楽の演奏会を開催した。	出展・出演団体数	10	13	団体	↗	a	
(39)-2青少年俳句大会	生涯学習課	小学5～中学3年生の俳句大会を開催した。	投句数	4,141	4,199	句	↗	a	
(39)-2ふるさと草津俳句会	生涯学習課	年に4回投句を募り、広報紙に入賞句を掲載した。	投句数	830	705	句	↘	c	

外部評価委員の意見
特になし

基本方向	3	地域に豊かな学びを創る	評価
目標	⑨	地域協働合校の推進	A
具体目標	ア	地域が支援する学校づくり	3.0
施策	(40)	地域による学校支援の推進	

具体施策			評価
(40)-1	地域の方が学校や幼稚園の教育活動を支援し、子どもと関わる取り組みを拡充します。		3.0
(40)-2	地域による学校支援システムの構築を進めます。		3.0

主な取り組みの成果	
(40)-1・2	<p>・小・中学校地域協働合校推進事業において、地域の方に授業やクラブ活動での指導者やボランティアとして、支援していただいた。平成23年度は、学校における重点施策として掲げた「子ども読書活動」に関する取り組みを多く実施し、地域の読書ボランティアの方に支援していただいた。</p> <p>・ゆうゆうびとバンク登録者による地域協働合校推進事業への指導者としての参加割合が増加傾向にあり、学校支援の1つとして、ゆうゆうびとバンクが定着してきた。</p>

今後の課題	
(40)-1・2	<p>・学校、市民センター(公民館)における地域協働合校担当者を中心に、地域の教育資源【人・もの】の掘り起こしや、人や情報をつなぐ等コーディネーターとしての役割を継続して実践することにより、さらに充実した地域協働合校事業の推進を図る必要がある。</p> <p>・地域協働合校推進事業における「ゆうゆうびとバンク登録者」活用について、さらに活動の幅が広がるように周知していく必要がある。</p>

取り組みの状況		実績						
事業名	担当課	活動の概要	項目	H22	H23	単位	推移	評価
(40)-1・2 地域協働合校推進事業	生涯学習課	地域の方に支援いただきながら小・中学校地域協働合校推進事業に取り組んだ。	支援いただいた地域の方の数	2.1	2.3	万人	↗	a
(40)-1・2「ゆうゆうびとバンク」事業	生涯学習課	ゆうゆうびとバンク登録者が地域協働合校推進事業の指導者として参加した。	参加者割合	49.1	59.6	%	↗	a

外部評価委員の意見
特になし

基本方向	3	地域に豊かな学びを創る	評価
目標	⑨	地域協働合校の推進	A
具体目標	イ	地域で子どもが育つまちづくり	3.0
施策	(41)	子どもが参加する地域活動の推進	

具体施策			評価
(41)-1	日常的な地域活動に子どもが参加し、大人と共に活動できるようにします		3.0
(41)-2	学校教育と連携した地域活動を通して子どもの育成を目指します。		3.0

主な取り組みの成果	
(41)-1・2	・学区・地区地域協働合校推進事業において、様々な体験学習・活動や地域行事への参加を通して、大人と子どもが共に活動する機会が増え、「地域の子どもは地域で育てる」という意識が定着しつつある。

今後の課題	
(41)-1・2	・子どもたちが事業に参加するだけでなく、企画段階から参画いただけるための工夫が必要である。また、地域協働合校事業のみならず、地域の様々な場での実践に繋げていく必要がある。

取り組みの状況		活動の概要	実績					
事業名	担当課		項目	H22	H23	単位	推移	評価
(41)-1・2地域協働合校推進事業	生涯学習課	子どもが地域活動に参加できるよう、学区・地区地域協働合校推進事業を実施した。	子どもの参加者数	8.6	9.6	万人	↗	a

外部評価委員の意見
○主な取り組みの成果として、「地域の子どもは地域で育てる意識が定着しつつある」と書かれているが、何をもって定着しつつあるとしたのか、その根拠がわからないので、その理由を文言として入れておくと一層具体的な評価になる。